

うえすとさいど

家財整理で集まる家具を必要な人へ 制度のすき間を埋める困窮家庭の支援事業

エアコン取り付け、草刈り、大掛かりな家の片付け、亡くなった方の家の家財整理…高齢化社会を迎えて最近よく耳にする困りごとです。障害のある方や高齢者世帯にとつては難題です。そんな難題に取り組んでいるのが、合同会社 TR Coordinator (八尾市高砂町 5-55-72) が経営する「総合福祉支援サポート」です。社会福祉士の高松達朗氏(44)が友人の岡田亮佑氏を誘って2023年7月に起業しました。制度では手の届きにくい支援をどのようにして事業化したのかーを語ってもらいました。

■住居からの退去を迫られた障害児の家族の支援～ゴミ屋敷の整理に奮闘

いったいどんな仕事なんでしょう？ 最近、同社が手掛けた業務の内容を例にして、説明してもらいました。

『40代の夫婦と小学生のこどもの3人家族が、家主から退去通告を受けました。夫婦は介護保険適用年齢でもなく、福祉サービスは利用していない。小学生の息子には障害があり、障害児相談支援事業所が関わっています。妻のA子さんには収集癖があり、物を捨てることができず、家の中はごみ屋敷状態』

この家族への支援は、まずゴミ屋敷状態の整理、引っ越し先探し、そこへの家財の運送…。この作業を一般の事業所に依頼すればかなりの高額になります。さらに、妻には「収集癖やこだわり」があって、作業を邪魔してさらに時間がかかるてしまう。

この家族の支援者であった基幹相談支援センター、障害児相談支援、ヘルパー、訪問看護、放課後等デイサービスなどたくさんの事業所の方が「どうするべきか」と解決策



上は「総合福祉支援サポート」を立ち上げた社長の高松達朗氏㊨と副社長の岡田亮佑氏。下は、ゴミ屋敷状態㊧から片づけの終わった室内㊨へとみごとに移行した一例



に頭を抱えました。その結果、高松さんに支援依頼が舞い込んだ、というわけです。

専門業者の提示した額ではとてもじゃないけれど支払えない。そんなときこそ高松さんのもつネットワークの出番だそうです。「福祉制度の中では対応できない困りごとに直面したときには小さな企業と手を取り合うことで突破口を作っていました。大企業ではなく小さな会社同士が誠実に力を合わせることで、費用を抑えて丁寧な対応をすることができます。そうやって協力をしあえる関係づくりを構築していくことが、利用者の困りごと解決の

第一歩になると思っています」(高松さん)。最終的にはこの方法で専門業者の見積もりから半額程度にまで費用を抑えることができ、市役所との協議も行き契約をすることができました。

「でも本当に大変だったのはここからです。作業は全部で5日間かかりました。途中でA子さんが「これは処分しないでほしい」と介入する場面も複数回。しかし、気持ちをないがしろすることなく、丁寧に説明して必要なもの、不要なものを納得して仕分けてもらい、作業を進める

ことができました。」

これだけ丁寧な対応が必要になる仕事を実行するにはしっかりととした理念と情熱、従業員への教育、そして何より「コスト計算」できる能力も必要です。「その役割は副社長が担っています。大学時代の友人で20年以上の付き合いがあります。ファイナンシャルプランナーの資格をもっていて元々は一部上場企業で従業員管理の仕事をしていました。私は常日頃『お金や経営のことは自分がするから、福祉の道からぶれるな』と言われています。」

いま紹介した内容は事業の前半だけです。こういった家財整理で集まつた家具・家電の行先は？ これを行うことで事業が完結するのです。（2面へ続く）

「暗闇で母の帰宅を待つ」家庭に灯りをともす

家電一つの提供で立ち直る 支援用品の集積を事業化

■イタリア料理のシェフ 祖父の介護で福祉の道へ

大学で英語文化学科を専攻し、卒業後はイタリアンレストランでシェフをしていましたという高松さんが、福祉の道に転身したのは、祖父の病気がきっかけでした。

「難病」に指定されているパーキンソン病を発症したのです。

この病気は、神経細胞の中にある種のタンパク質が凝集して発症するといわれ、体がふるえ、動作が緩慢になり、筋肉が硬くなつて転びやすくなるなどの症状が起きます。祖父の介護に追われる祖母を見て、病気や障害のある家族がいる家庭の大変さを感じ、家族の気持ちがわかる相談員になりたいと、社会福祉士の資格を取得。その後は西成区の社会福祉協議会で2年間勤め、さらに八尾市にある社会福祉法人で17年間、高齢者福祉の分野の相談員として経験を積みました。

■生活困窮者支援を通じて感じた限界を事業に

八尾市での活動はとても貴重でした。社会福祉法人で勤務をしていたときにコミュニティソーシャルワーカーとして大阪府社会福祉協議会の『生活困窮者レスキュー事業』に関わる仕事をしていました。生活に困窮している人から相談を受け、『支援を緊急に行う必要がある』と判断した場合、市内の福祉事業者の特性や強みを活かして、現物給付など迅速な支援を行う仕組みです。大阪府下全域を対象にした事業ですが同市の取り組みは『八尾方式』と呼ばれ、独自のネットワークで諸施設間の連携がしっかりとられていることが、臨機応変な対応を可能にしていました。

「この活動を続ける中で、私は“生きづらさ”を抱えながら暮らしている人がたくさんいることに気づきました。体験した例では照明器具もない暗い部屋で子どもたちが母親の帰りを待っていました。連絡で駆けつけ、部屋に灯りがともったとき、あふれるような笑顔が広がりました。今も胸の奥に強く残る光景です。

昭和印刷広告スペース



生活困窮者へ無償提供される家財道具が倉庫に。善意で寄せられたものです

しかし、いつでも助けられたわけではありません。現物給付をするための家電や家具の在庫がなく、何もできなかった例もあります。寄付を募る活動もしましたが、それでも物品は不足しがち。制度だけでは手の届かない人たちがいる。その解決の方法として考え付いたのが今の事業です」（高松さん）

■困りごとをリサイクルで解決～社名の「TR」の意味

「生活に必要な家電や家具がひとつ届くだけで、人はもう一度立ち上がる。そんな瞬間に何度も立ち会ってきました。だから、家財整理を通じて不要になった家電や家具を集積し、それを無償で届ける」という新しい仕組みを思いついたのです」

2023年7月、合同会社「TR Coordinator」を起業。「TR」には、Trouble（困りごと）とRecycle（再利用）をコーディネートする会社という思いを込めました」

家財整理の相談を通じて見えてきたのは制度の枠を超えた対応ができる総合相談窓口の必要性でした。

「利用者に日々対応する相談員は介護保険や障害福祉サービスのことだけではなくてもっと生活に密着した相談を受け、利用者の抱える生活課題に直面しています。制度の中で対応できないことが多い。その相談の窓口になれないかと考えました。ただ家財整理をするのではなく、いろいろな方からの相談をうけて、今あるネットワークの中でその相談に対応できる人につなぐ、それも弊社の役割。社会福祉士である私だからできることだと思っています」

そして高松さんは事業への想いや展望を語ります。「生きづらさに押しつぶされそうになっている誰かに必要な支援がちゃんと届く社会を作りたい。暗闇にいる人のそばに、もう一度灯りがともるよう。そのために、この循環をもっと広げていきたい。また、そういう人たちが安心して過ごせる居場所、家でも会社でもない、第三の居場所づくり。そうした場所同士のネットワークづくりもしていかたいですね」

社会福祉士としての経験の中で知った手の届かない場所、そこに助けを求める人がいる。その人たちを社会から孤立させることなく、循環の輪の中に確かに存在する人たちとして手を差し伸べる。

そういう活動をいろいろな場所に広げていくことができれば、と感じました。

（西田 奈津子）



趣味の落語を一席 お披露目に参上 川風亭喜輪 「バリアフリーな街ふせ」で

せんぶうてい きりん

ことしも2月11日に、「バリアフリーな街ふせ」(布施商店街・クレアホールで)が開かれます。そのオープニング・セレモニーに、「え~、お笑いを一席」演じてくださる方をご紹介します。川風亭喜輪こと衣川博美(きぬがわ・ひろみ)さん(63)です。18歳のころ、たまたま買った桂枝雀さんの落語のテープをきっかけで、落語にハマリ、テレビの素人芸能大会で入賞したこともあるそうです。いま本番に向けてネタ作りに勤しんでおられます。

「落語との出会いですか? うへん、あれは18歳くらいのときかなあ。実はね、松田聖子さんのレコードを買いに行つたんですよ。ところが、聖子ちゃんのレコードは売り切れてしまってた。がっかりでしたが、せっかく来たんだからと、ほかの商品を見てたら、『桂枝雀上方落語全集』とかいうタイトルのテープがあつたんです。仁鶴さんとか三枝さんは知つてたけど、枝雀さんって、その頃は知らなかつた。でも、それを買って聞いたら、面白くて面白くて。落語ってこんなに面白いのかと思いました」。

以来ハマつてしまつて、あちこちの落語会に出かけてはナマの話に笑い転げ、さらに聞くだけでなく自分自身で落語を演じることも。そしてある時、テレビの「素人名人会」に出演して、みごと「名人賞」を受賞したこともあるそうです。



娘さんとのコスプレアミューズのハロウィンイベントで

★イベント案内★

◆小阪病院「ウキウキバザー」

日時: 2026年1月27日(火) 13:30~15:00

場所: 小阪病院1階ブルーバル(河内永和駅徒歩5分)

出店: 社会福祉法人天心会 地域生活支援センターふう

社会福祉法人ゆう ないろほ~む他

スマートボール、ミニゲーム、ガチャガチャなど

◆ドキュメンタリー映画「つばさをひろげて~私たちは地域でくらしたい~」上映&シンポジウム

日時: 2026年2月12日(木) 12:30~16:15

場所: 東大阪市文化創造館 大ホール

(八戸ノ里駅徒歩5分)

料金: 一般 1500円/障害者割引 1000円 購入はパンジー

メディアまで Mail:pansymedia@pansy-net.or.jp

Tel:072-968-7151 Fax:072-968-7160 前号特集のカラーズさん参加

◆東成こどもモノづくり体験フェスタ

日時: 2026年1月24日(土) 10:00~16:00

場所: コミ協ひがしなり区民センター

(東成区大今里西3丁目2番17号)

★WEBページでの事前参加申込みが必要

※予約制の体験有。先着順の体験は当日の参加も可

イベントHP
こちら→



そんな衣川さんですが、実は10年ほど前から、「ふせまちかど相談所」の支援を利用するようになりました。20歳の秋から食品会社で働き、60歳の定年退職まで39年間勤めました。32歳のとき、お見合いで出会った奥様と結婚、間もなく娘さんも誕生して幸せな生活でした。お見合いの事や娘さんの誕生日も、克明に記したノート



集めている桂米朝コレクション

を見ながら説明してくれます。「文章を書くのが好きで、日々の事を振り返っては書いてきたんです。入社したころ工場は20時くらいで終業だったので日勤だけでしたが、40代後半になって工場がフル稼働となり、それからは夜間や深夜の勤務ばかりで昼夜逆転、生活リズムを作ることが大変に。つらい日々が続きました。」ふせまちかど相談所が支援をするようになったのもそんな時期でした。早期の退職を考えたこともありましたが、「家族のため」と休むこともなく定年まで全うしました。退職後は再就職をめざして就労移行支援事業所「アミューズ」へ通所し、その支援で特別養護老人ホームで働くことに。介護の資格も取ったそうですが、担当業務は清掃が中心です。施設には認知症の方も多い。でも衣川さんは「僕は認知症の人、という風には思っていない。静かな人、話す人、動く人など、その人のタイプをみてコミュニケーションをとりながら仕事をします。」

さて、「バリアフリーな街ふせ」で演じる落語はどんなネタでしょうか。上方の落語家さんが入門して最初に挑戦するのが『東の旅』というお話。《喜六、清八という大阪の若いもんがお伊勢さん行こうと、大阪を出て玉津橋から深江へとまいります。「笠を買うなら深江笠」てなことを申しまして、笠が名物でございます。》衣川さん、その一節を語りつ



桂米朝コレクションの本を手に初めの部分を語ってくれました

つ、「この話をモデルにして二人が、布施の商店街を、むかしさはここに映画館があつたんやで。あっちには…と掛け合いしながら歩いて、昔の布施の賑わいを紹介してみたら面白いのでは…」と、ネタの作り込みに工夫を凝らしています。みなさん、お楽しみに!!(西田奈津子)

ふせ支援ネットワーク賛助会員

東大阪店舗管理センター

カットハウスAmi

昭和印刷出版株式会社

Craftbeer Tavern

一般社団法人アミューズ

アトリエからふる

カレー作りやクラフト体験に歓声 初めてのキャンプ!!

『そだちの家まちかど』 in 生駒山麓公園野外活動センター

10月11日土曜日。生駒山麓公園野外活動センターには続々と子どもたちが集まってきた。雲の多い灰色の空でしたが、その雲を吹き飛ばすような元気な笑い声が響きわたります。「そだちの家まちかど」にとって、初めてのデイキャンプ企画です。

チームに分かれ、それぞれの担当の仕事を実行します。カレー作りチーム(写真①)は、野菜の皮むきやカットをがんばりました。最初はスタッフに手を添えてもらひながら包丁を持っていた子も、後半には一人でにんじん1本分切れるほどに！

また、同行していただいたキャンピズさんたちの



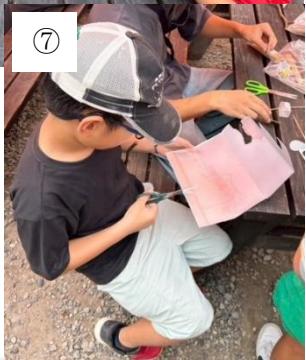
サポートを受けながら、初めて薪割り(写真②)や火の番(写真③⑤)なども体験しました。他の子が薪をきれいに割る姿を見て「おお」と目を輝かせ、自分もやりたい！とチャレンジする子や煙にまみれながらも火の番を手伝ってくれる子など普段はなかなか見ることができない姿も見ることができました。



「いただきまーす！！」とみんなでカレーを食べ始めるころには、天気も良くなり、少し汗ばむ陽気に。お皿に山盛りのカレーを、さらにおかわりもするほど、おいしいカレーでお腹もいっぱい。(写真⑥)



食後は、キャンピズさんと一緒に、竹とんぼやブンブンゴマなど木材を使ったおもちゃの工作(写真⑦⑧)。とっても楽しいキャンプとなりました♪



ちなみにカレー作りの横では虫好きの子どもたちがバッタやカマキリ、ヤモリなどを見つけては「おったでー！見てー！」と走ってほかの子やスタッフに見せてくれました。(写真⑨)虫を観察する子どもたちのまなざしは好奇心にあふれ、キラキラ輝いていました。

お知らせがあります

第20回バリアリーな街ふせ

今年も開催いたします！

入場無料
入退場自由

(日時) 2026年2月11日(水・祝) 11:00~14:00

(場所) クレアホール・ふせ(東大阪市足代北2丁目1-13 ブランドーリふせ商店街内)

(ステージ) 漫談・創作落語 発達凸凹アイドルカラドルパフォーマンス

(販売) おにぎらず・パン・焼き菓子・さおり・羊毛フェルト製品 ハンドメイド雑貨など

(体験) ハンドケア フェイスペイント ハンドメイド小物ワークショップ ゲーム

～食べて、見て聴いて、体験して、楽しく、ほっこりおすごしください～